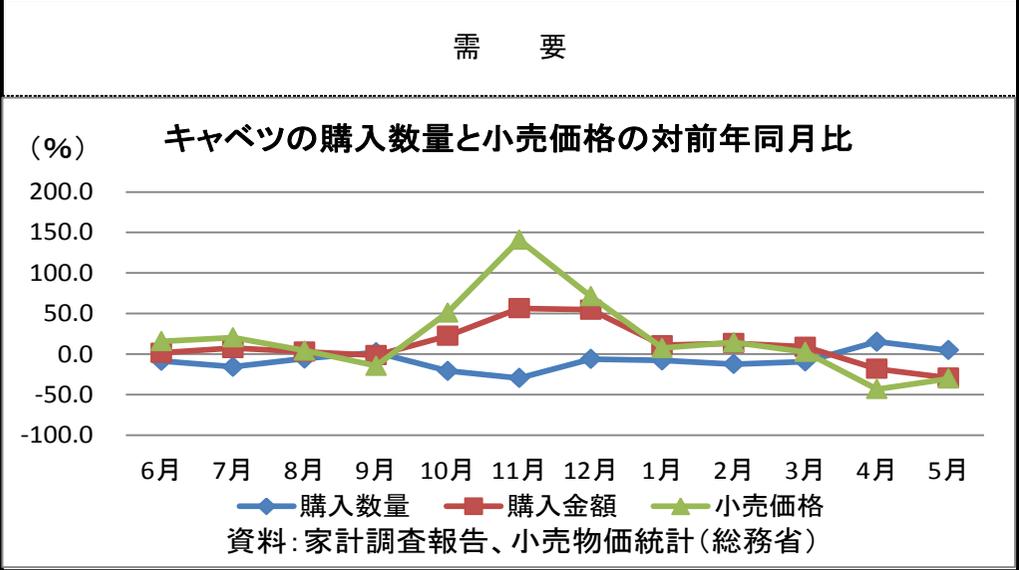
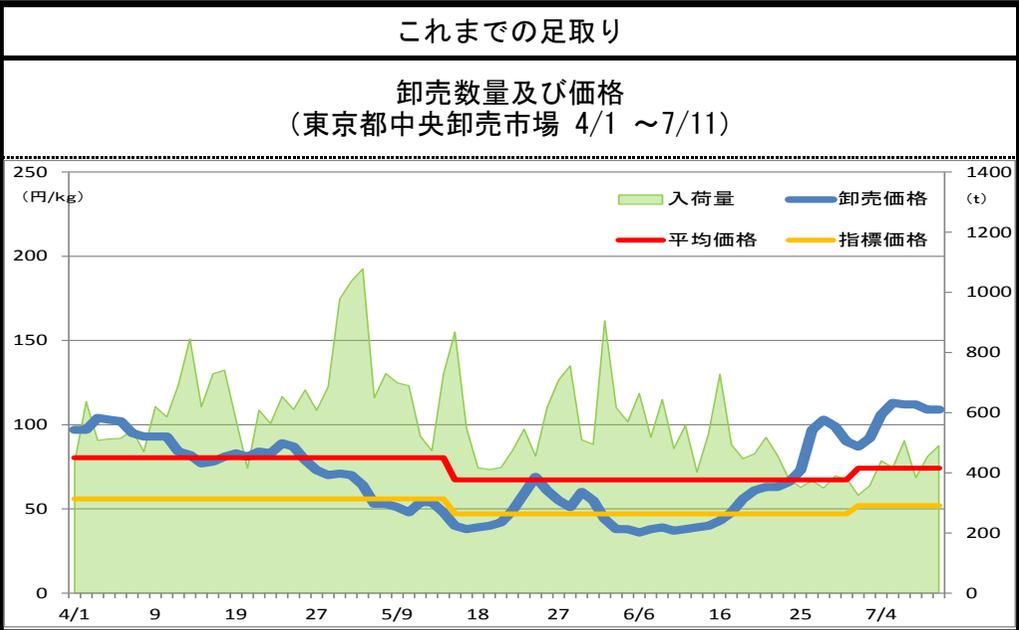


○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

資料2-1

夏秋キャベツ（7～10月）



今後の見通し

供給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：群馬、長野、北海道)

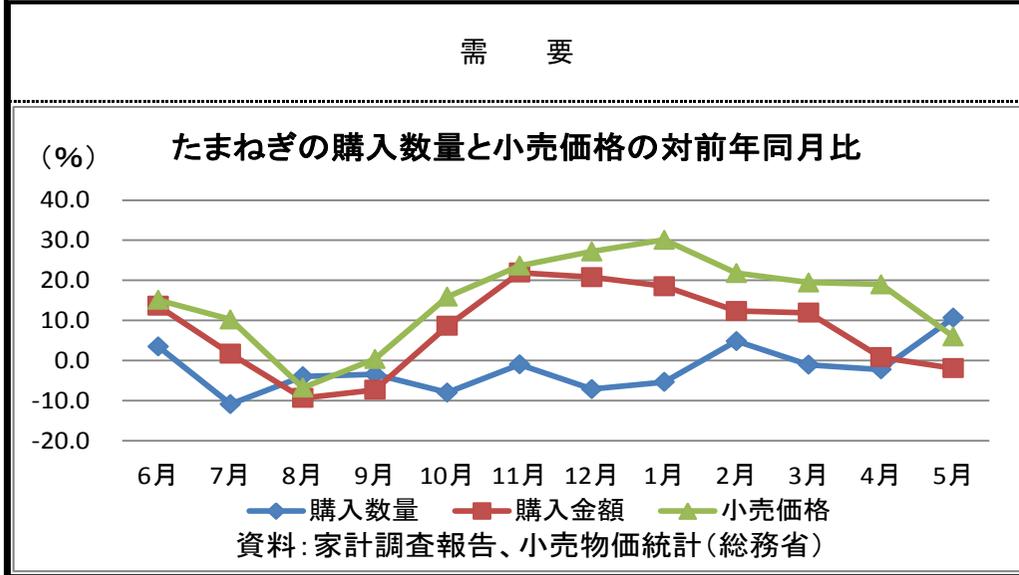
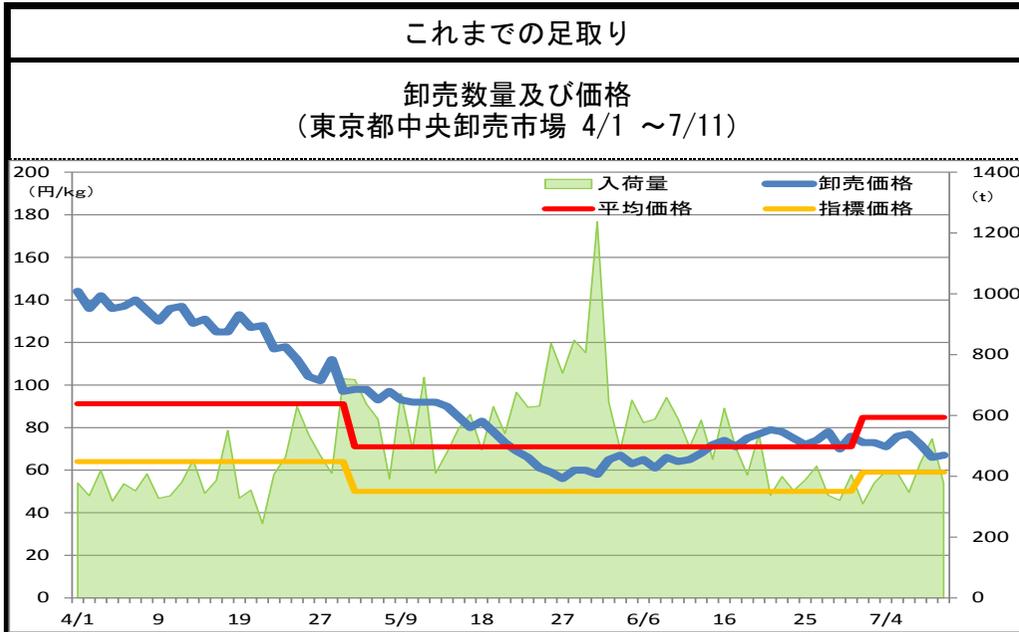
- 1 作付面積は、群馬、北海道は前年同、長野は前年比101%と前年並み。生育状況は、群馬は播種・定植初期に低温・干ばつの影響を受けたが、4月以降回復基調で推移し、現在順調。長野は梅雨入り後の冷涼な気候により順調。北海道は4～5月の低温・降雨・日照不足により生育が遅れたが、6月以降回復傾向。
出荷開始は、群馬、長野は6月中旬、北海道は7月上旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み又は平年より多め、降水量は平年並み又は平年より少なめの見込み。

野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、主産地である群馬、北海道が前年同、長野県が101%で、全体としては前年同となる見込み。
生育状況は、一部の県で低温等の影響を受けた時期があったものの現在は順調。
出荷量は、少なかった前年をかなり上回り、平年をやや上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
出荷量が不作の前年を上回ること、震災の影響により加工業務用需要が弱含みであることから、価格は前年を下回る見込み。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

たまねぎ（7～10月）



今後の見通し

供給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：北海道、佐賀、兵庫)

1 作付面積は、北海道は前年比99%と前年並み、佐賀は前年比103%とやや増加、兵庫は前年比96%とやや減少。
生育状況は、北海道は6月初旬に一部産地で降雹被害が発生したが全体では平年並みに回復の見込み。佐賀は厳冬期に生育不足が見られたが、収量は平年並み。兵庫は5月の降雨以降、順調な生育となり大玉傾向。
出荷開始は、北海道は8月。佐賀、兵庫は8月頃まで出荷。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年より多め、降水量は平年より少なめの見込み。

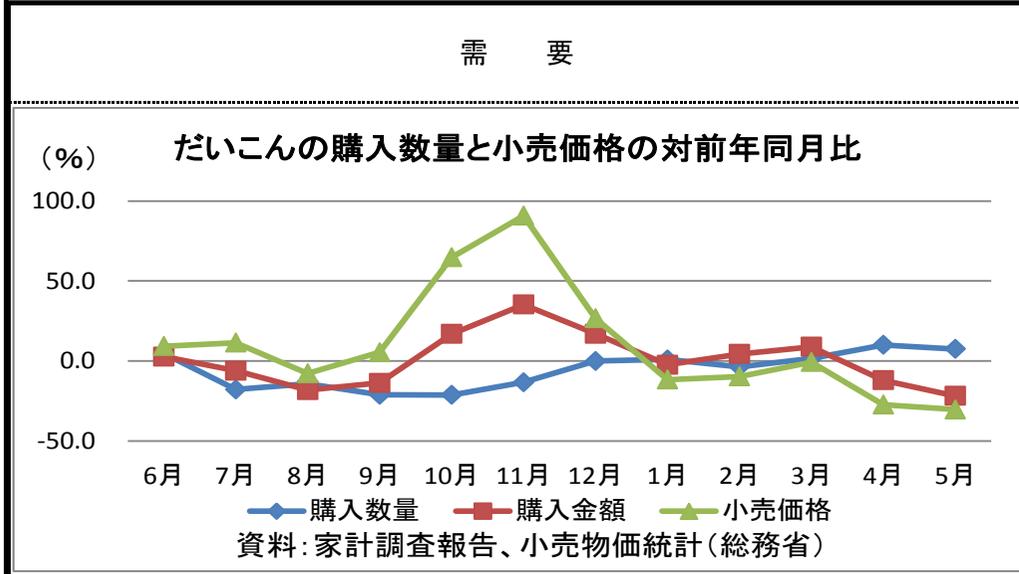
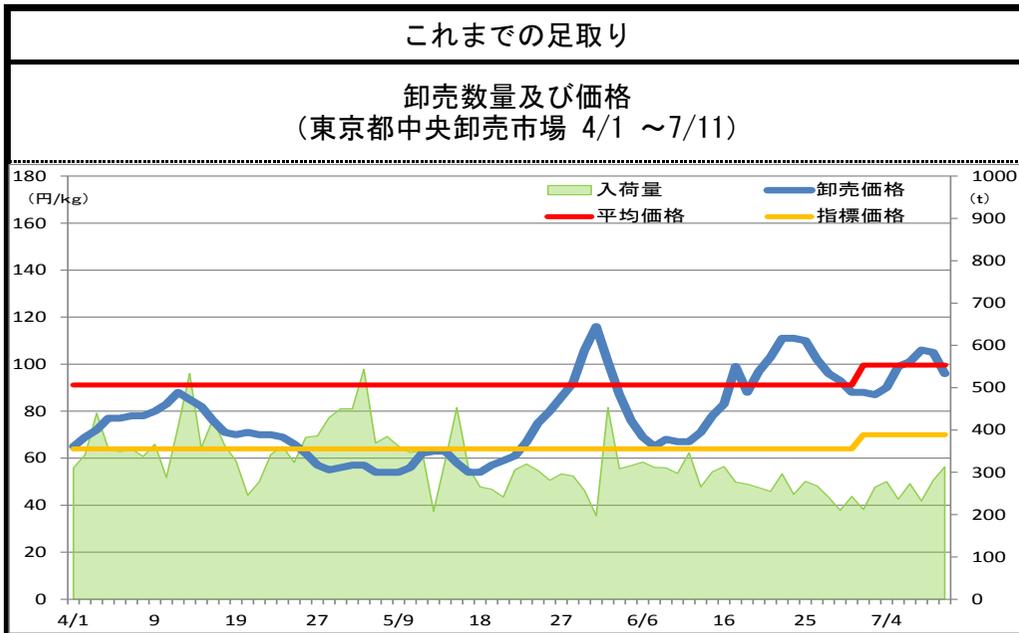
野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

1 供給見通し
作付面積は、主産地である北海道が前年並み、兵庫が96%と減少するも佐賀が103%と増加し、全体としては、前年並みとなる見込み。
生育状況は、北海道は一部の産地で雹害があるものの全体では平年並みに回復の見込みで、佐賀は、厳冬期の生育不足があったが平年並み、兵庫は順調な生育で大玉傾向となる見込み。
出荷量は、不作だった前年をかなり上回り、平年をやや上回る見込み。

2 需要・価格見通し
府県産の貯蔵物が潤沢で北海道産も順調であることから、出荷量が前年をかなり上回り、また、輸入品の価格が下がっている中で低コストを目指す実需者からの輸入品へのニーズも底堅く、価格は前年を下回る見込み。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

夏だいこん（7～9月）



今後の見通し

供 給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：北海道、青森、岐阜)

1 作付面積は、北海道は前年比99%と前年並み、青森は前年比103%とやや増加、岐阜は前年同。
生育状況は、北海道は4～5月は天候不順であったが、6月以降の好天により気温が上昇し生育順調。青森は生育順調。岐阜は播種直後の低温のため、1週間程度の遅れ。
出荷開始は、北海道は6月中旬、青森は7月上旬、岐阜は7月上旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み又は平年より多め、降水量は平年より少なめの見込み。

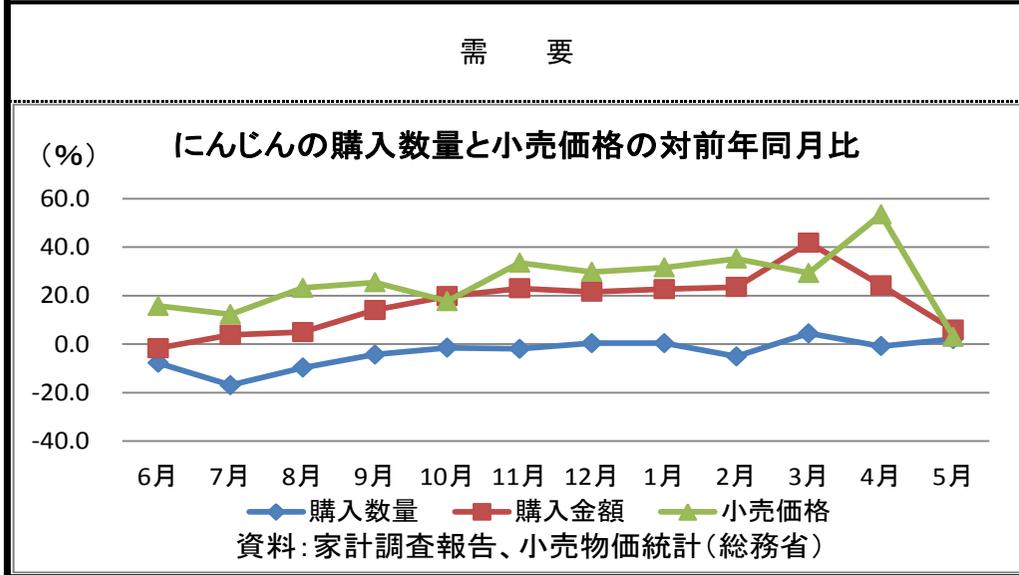
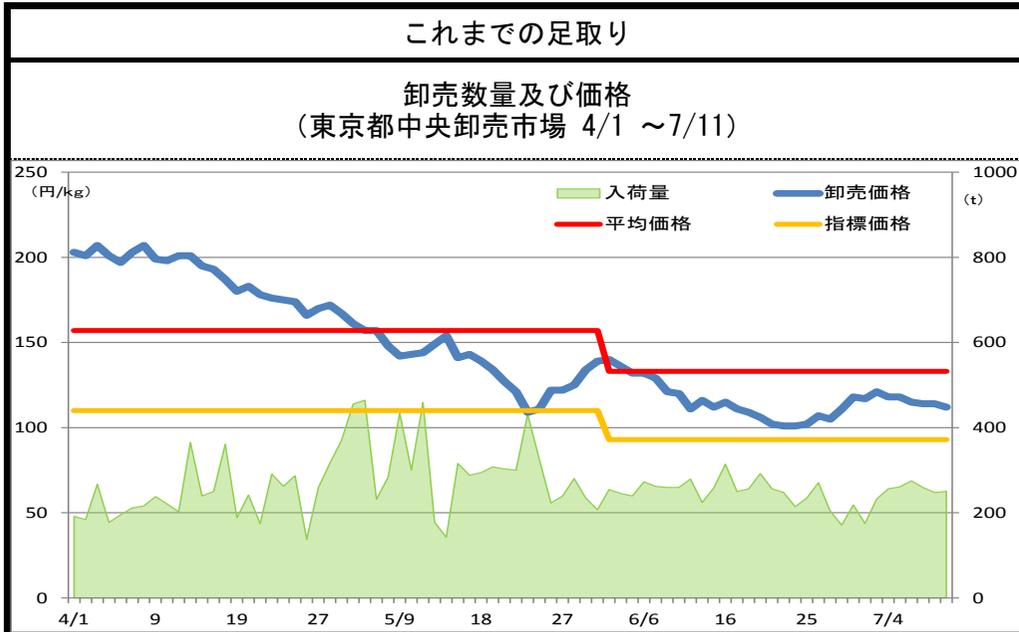
野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

1 供給見通し
作付面積は、主産地の北海道は前年並み、青森は103%で、全体としては前年並みとなる見込み。
生育状況は、北海道は、4～5月は天候不順だったものの、その後の好天により回復傾向、青森は生育順調。
出荷量は、不作だった前年をかなり上回り、平年よりも多い見込み。

2 需要・価格見通し
1本売りがほとんど見られないなど、夏場の需要が少ない中であって、全体的に出荷量が増加し、特に8月～9月は出荷が集中することが見込まれ、価格は前年を下回って推移する見込み。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

秋にんじん（8～10月）



今後の見通し

供給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：北海道、青森)

1 作付面積は、北海道は前年比101%と前年並み、青森は前年比108%とかなり上回る。
生育状況は、北海道は4月下旬～5月中旬までの天候不順により、播種が1～2週間遅れたが、その後は播種・生育順調。青森は低温が続いたため1週間前後遅れていたが、その後の天候回復により生育順調。
出荷開始は、北海道は7月中旬、青森は6月下旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み又は平年より多め、降水量は平年より少なめの見込み。

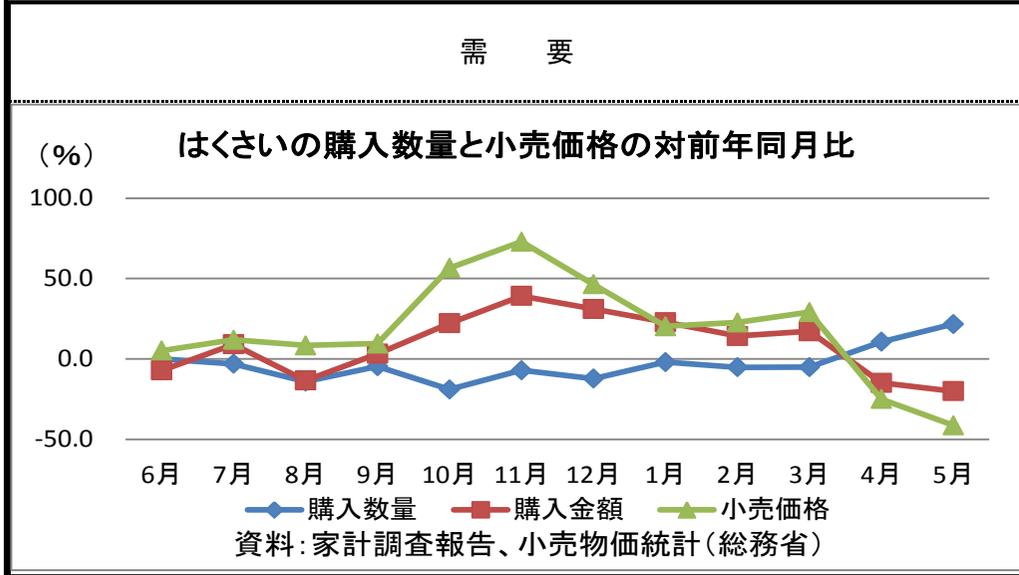
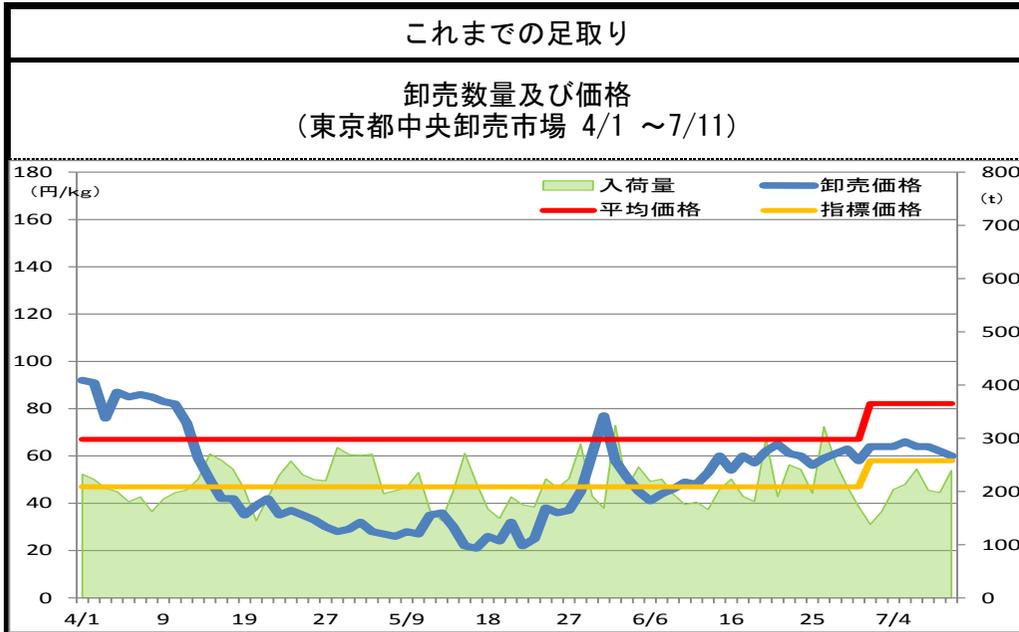
野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

1 供給見通し
作付面積は、北海道は前年並みだが、青森は108%と増加するため、全体では前年より増加する見込み。
生育状況は、天候不順で播種や生育の遅れがみられたが、その後の天候回復で現在順調。
出荷量は、作付面積の増加から、前年、平年をかなり上回る見込み。

2 需要・価格見通し
出荷量が前年よりかなり増加する中、低コストを目指す実需者から輸入品へのニーズも底堅く、特に出荷が集中する8月中旬以降の価格は前年を下回って推移する見込み。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

夏はくさい（7～10月）



今後の見通し

供 給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：長野、北海道、群馬)

1 作付面積は、長野、北海道、群馬ともに前年比99%と前年並み。
生育状況は、長野は6月の気象に恵まれ生育順調。北海道は播種・定植が順調で生育も順調。群馬は低温・干ばつにより初期に生育が3～5日遅れたが、その後の降雨で回復基調で作柄良好。
出荷開始は、長野は5月下旬、北海道は7月上旬、群馬は6月上旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は前年並み又は前年より高め、日照時間は前年より多め、降水量は前年より少なめの見込み。

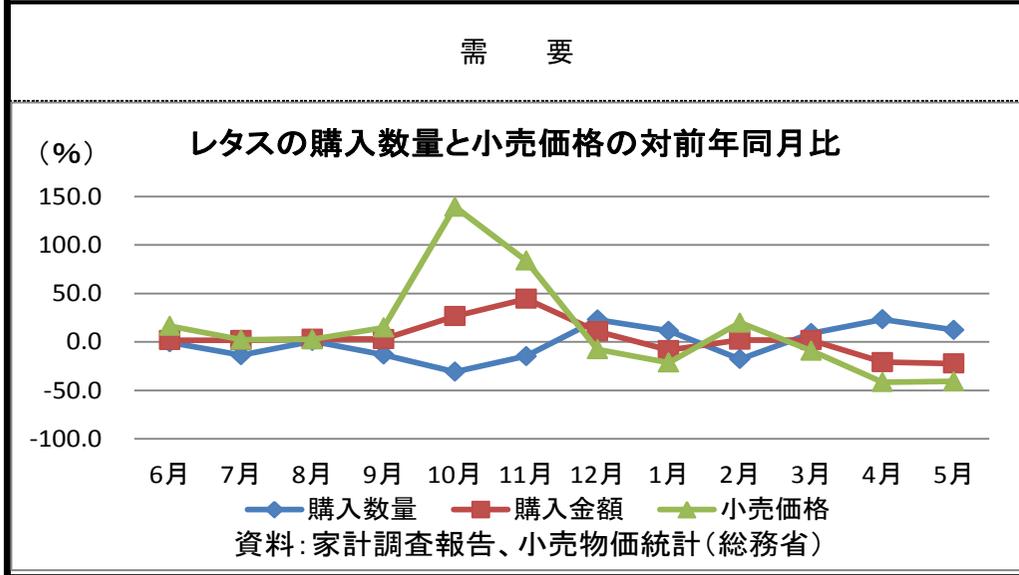
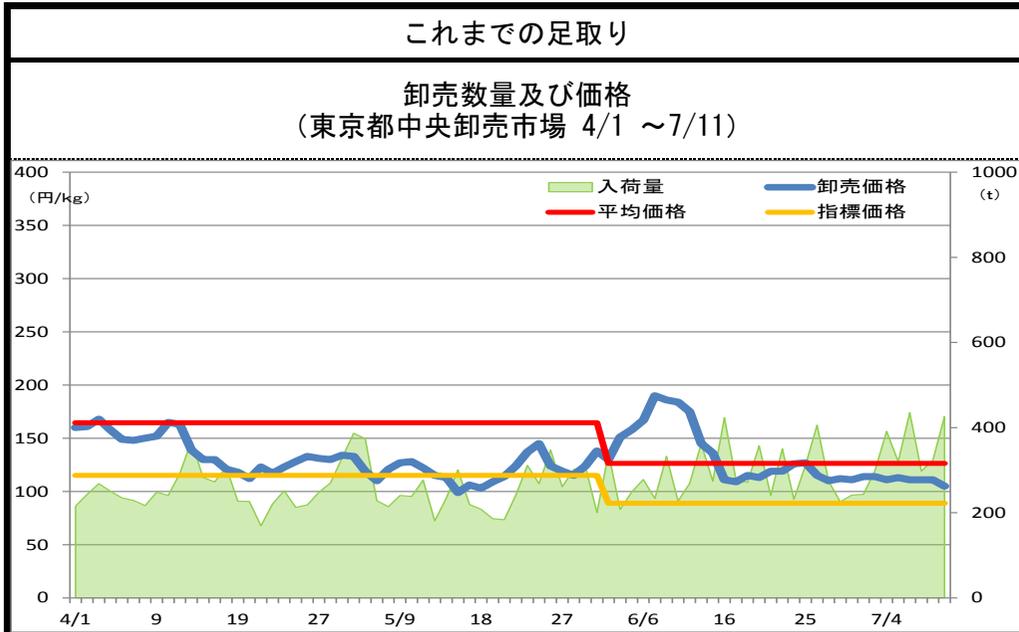
野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

1 供給見通し
作付面積は、主産地の長野、北海道、群馬ともに前年並みの見込み。
生育状況は、長野、北海道は生育順調。群馬は低温・干ばつによりやや遅れていたが、回復基調。
出荷量は、前年並みで、前年より少な目の見込み。

2 需要・価格見通し
夏場は需要が少なく、低価格であっても小売数量は伸びず、加工も落ち込んでいることから、価格は前年を大幅に下回って推移する見込み。
需要がほとんどない中で計画的な生産を一層進めるべき。
出荷時期が後ろ倒しとなっていることから、秋冬産地との競合の恐れ。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

夏秋レタス（6～10月）



今後の見通し

供給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：長野、群馬、茨城)

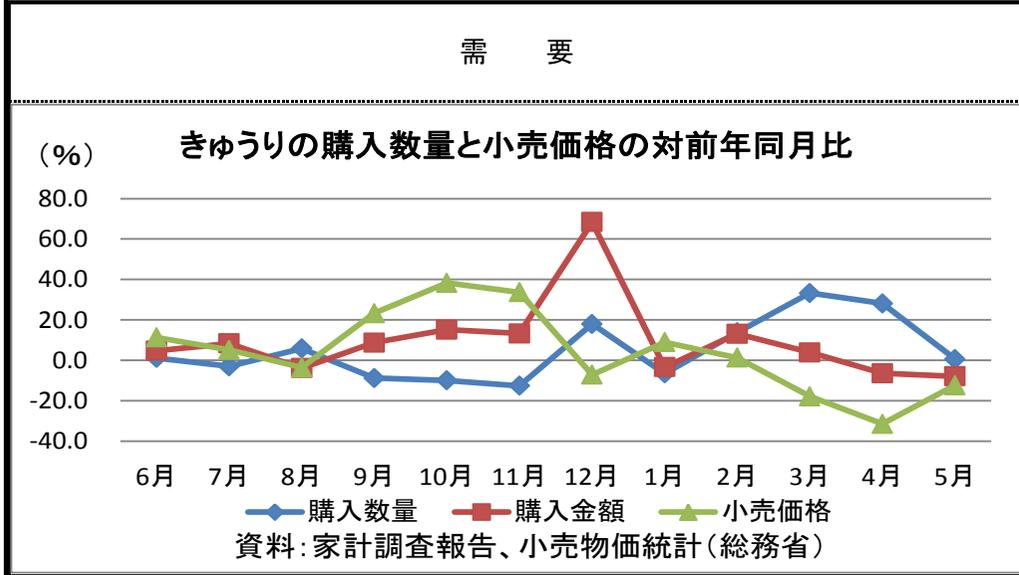
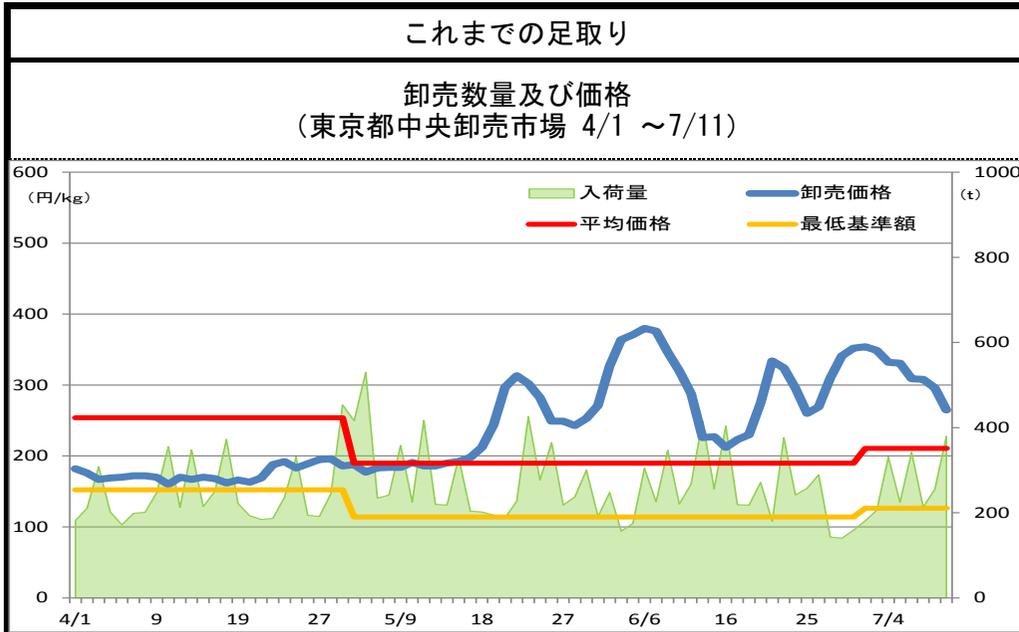
- 1 作付面積は、長野、茨城は前年同、群馬は前年比101%と前年並み。生育状況は、長野は6月前半に曇天・降雨・低温の影響で細菌性の病害も散見されたが、全体としては概ね順調。群馬は病虫害も少なく順調。茨城は8月以降の播種。
出荷開始は、長野は6月中旬、群馬は4月中旬、茨城は9月下旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年より多め、降水量は平年より少なめの見込み。

野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、主産地の長野、群馬、茨城ともに前年並みの見込み。生育状況は、一部で病害の発生もあるが、概ね順調。
出荷量は、前年をやや上回ると見込まれ、7月までは安定した出荷となるが、8月以降は今後の気温・降雨の影響を注意する必要。
- 2 需要・価格見通し
出荷量が前年を上回る一方、夏場は元々サラダ需要があることに加え、今年は節電による非加熱メニューの材料として需要は伸びる可能性もあるが、需要量の多い業務用ではキャベツに移行する動きがみられることから、価格は下落基調となる見込み。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

夏秋きゅうり（7～11月）



今後の見通し

供 給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：群馬、福島、埼玉、岩手、北海道)

1 作付面積は、群馬、埼玉は前年同、福島、岩手、北海道は前年比97%とやや減少。
生育状況は、群馬は1週間程度遅れているが、天候次第で平年まで回復見込み。福島は低温、震災等の影響から前半に定植作業が7～10日遅れていたが、現状の生育状況から平年並みに追いつく予想。北海道は天候不順の影響で播種・定植作業がやや遅れ、5月の低温で生育も遅れ。
出荷開始は、群馬は6月、福島は6月下旬、埼玉は8月下旬、岩手は6月末、北海道は7月下旬より一部道外出荷。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み又は平年より多め、降水量は平年より少なめの見込み。

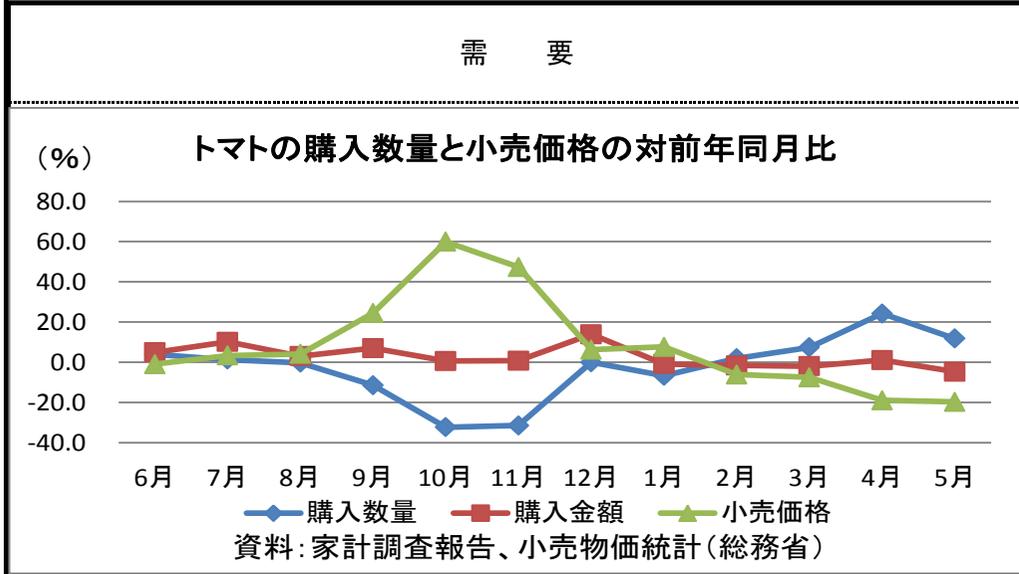
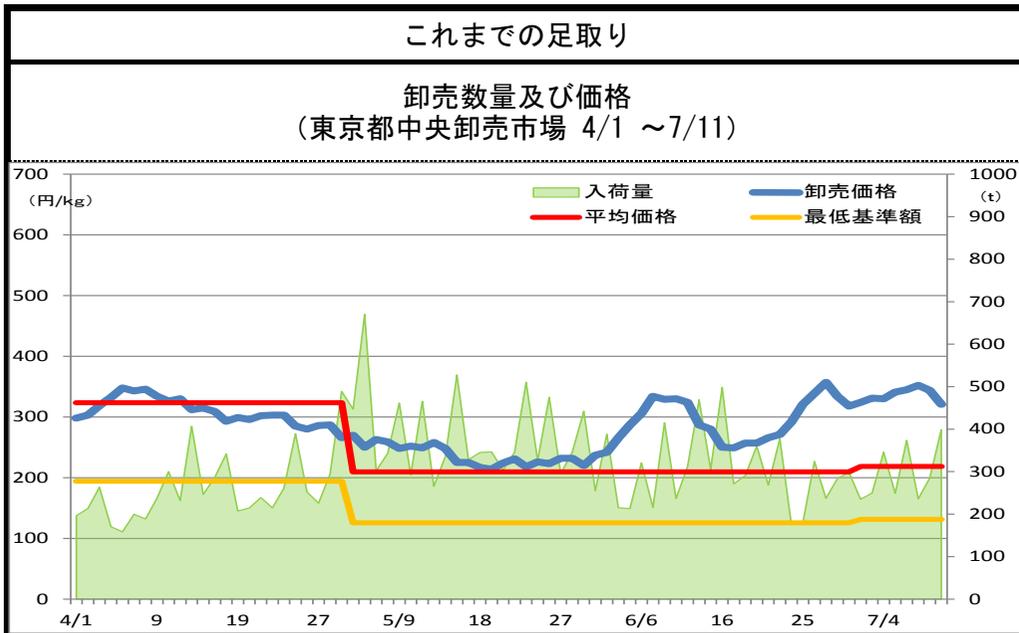
野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

1 供給見通し
作付面積は、主産地の福島、岩手、北海道がやや減少するが、群馬、埼玉は前年並みであり、全体としては前年並みの見込み。
生育状況は、福島は低温、震災等の影響でやや遅れているが、現状の生育は順調。北海道は天候不順の影響でやや遅れているが回復見込み。
出荷量は、現時点では前年をやや上回り、ほぼ平年並みの見込み。

2 需要・価格見通し
出荷量は前年を上回るが、原発事故に伴う節電ムードから、非加熱食材として、サラダ需要の増加が期待されることや流通業者の産地支援の動きもあることから、価格は前年並みを維持する見込み。

○23年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

夏秋トマト（7～11月）



今後の見通し

供給
(生産・出荷の現況及び今後の天候見通し)

(主な産地：北海道、岐阜、福島、茨城、熊本)

1 作付面積は、北海道、岐阜は前年比101%と前年並み、福島、茨城はそれぞれ前年比93%、92%とかなり減少、熊本は前年同。
生育状況は、北海道は5月の低温・日照不足で1週間前後生育が遅れたが、6月以降の好天で回復基調。岐阜は梅雨入りが早くて日照が少なく2～3日の生育遅れ。福島は加温・無加温ものは震災後の燃料不足や低温の影響で生育が遅れたが、5月下旬より出荷量も回復。熊本は5月までの低温・乾燥や梅雨の曇天・雨天・日照不足で生育が悪い傾向。
出荷開始は、北海道、岐阜は6月上旬、福島は6月中旬、茨城は8月、熊本は6月中旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並み又は平年より高め、日照時間は平年並み又は平年より多め、降水量は平年より少なめの見込み。

第10回野菜需給・価格情報委員会
での需給・価格の見通し

1 供給見通し
作付面積は、福島が93%、茨城が92%と前年を下回るが、北海道、岐阜が前年並みとなり、全体としては前年並みとなる見込み。
生育状況は、低温等で生育が遅れたが、熊本を除き、おおむね回復。
出荷量は、不作であった前年、平年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し
原発事故に伴う節電ムードから、非加熱食材として、サラダ需要の増加も期待されるが、出荷量全体が前年を上回ることから、価格は全般的に前年を下回り、特に8月中旬以降は更なる低下の恐れ。

その他夏秋野菜全体の消費の動向など

【景気、天候などの要因による消費動向】

- ・景気が低迷しており、消費減退傾向が根底にある。
- ・震災の影響で外食産業を中心に一時減退していた加工・業務用需要については、中食需要はほぼ回復したものの、外食需要は回復が遅れている。

【震災、原発事故の影響による消費動向】

- ・震災の影響は業種・業態により異なっており、特に外食における消費減退傾向が強い。
- ・原発事故に伴う消費減退は、一時落ち着きを見せていたが、お茶からセシウムが検出されたころから再び現れてきている。
- ・学校給食などでは子供の食に関する安全性への高い関心から特定の産地を避ける意向を示しているところもある。

【野菜全体の販売状況】

- ・夏の節電の影響を前提に、家庭での非加熱メニューへの需要やサマータイムによるライフスタイルの変化に対応した販売戦略が必要。特に非加熱メニューの代表であるサラダ食材の需要や、家庭での揚げ物の減少による総菜・中食需要の伸びに着目している。しかしながら、非加熱での調理では、消費量が減少するという問題がある。キャベツの場合、店では1/8カットで販売するケースもある。
- ・原発事故と野菜産地との関係については、消費者の中に様々な考えの人が存在するので、それぞれに合わせて色々な選択ができるよう、同種の野菜について複数産地のものを併売することとしている。